

令和 4 年 5 月 23 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K21611

研究課題名(和文)領域横断的な「グローバル・アート学」の構築

研究課題名(英文) Toward an interdisciplinary study on global arts

研究代表者

岡田 裕成 (Okada, Hiroshige)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：00243741

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「《Cosmo-Eggs 宇宙の卵》(ヴェネツィア・ビエンナーレ2019日本館)：アートと人類学の交点から考える」などのシンポジウムを研究チームで共同で開催した。これを通し、今日のアートを取り巻くさまざまな力関係を、「ローカルなもの」と「グローバルなもの」の対比などを軸として具体的に示した。

その成果に照らしつつ、個別の研究においては、初期近代スペインの植民地帝国の美術や、現代の中東欧のポピュラー音楽、戦後アメリカの日系人アーティストの作品などを例として、美術をめぐるグローバルな地政学の力学が、美術作品の主題モチーフや様式、素材・技法の選択などに作用する過程を解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来のアカデミズムの周縁にあって、方法論や分析概念の共有や深化をめぐる対話が必ずしも容易でなかった領域の研究者が相互に協働することにより、新たな研究の枠組みを提示した点に大きな学術的意義がある。その問題意識は美術史学会などでも近年注目されつつあり、研究代表者と分担者・池上は本年の同学会大会シンポジウム「移住者たちの美術」の報告者として招待されている。また、グローバルリズムという今日的課題に関わる研究であることから、社会的にもインパクトをもつものであった。上に述べた《Cosmo-Eggs 宇宙の卵》についてのシンポジウムは、『毎日新聞』にも詳細な紹介記事が掲載された。

研究成果の概要(英文)：Through the symposium: "<Cosmo-Eggs> (Japan Pavilion Exhibition, Venezia Biennale, 2019) : A Dialogue Between Art and Anthropology", and other research programs celebrated in collaboration with all the members of the team, our project shed light on the dynamic politics surrounding the today's art world focusing on the topics such as the conflicts between "the local" and "the global".

Based on the views achieved through those research sessions, each member explored the problems concerning how the geo-political dynamics interacts with the artistic practices such as the choice of the subject matters, motifs, materials, techniques, and other elements, through the specific topics in the field of their own research: 1) arts under the colonialism in the early modern Spanish empire, 2) Eastern and Central European pop music, 3) Japanese-origin artists in the post-war United States.

研究分野：美術史学

キーワード：グローバルアート スペイン ラテンアメリカ 中東欧 戦後アメリカ合衆国

1. 研究開始当初の背景

申請者はヨーロッパ美術の研究から転じ、植民地の非ヨーロッパ系社会におけるヨーロッパ美術の受容という、グローバルな文化交渉の問題に長らく取り組んできた。同時に申請者は、本科研プロジェクトの分担者・伊東信宏らと共同で開催した公開シンポジウム「接触領域の芸術 美術・音楽・芸能」(民族芸術学会 2014 年度大会)など、自ら企画したり招聘を受けた国内外の研究集会において、領域横断的な研究対話を積極的に行なってきた。そこで深く認識したのは、従来のアカデミズムの領域区分の中で周辺的な位置に置かれている境界領域的事象を、相互になぎ合わせる学術的な試みに期待される大きな可能性であった。

伊東の唱える「東欧演歌」(中東欧ポップス)の成り立ちは、植民地体制下の非ヨーロッパ系コミュニティにおけるヨーロッパ美術との交渉過程とよく対応する。またもう一人の分担者・池上裕子は、「ポップアート」のようなグローバルな芸術スタイルを操作する、戦後 沖縄の地域的なアーティストのアイデンティティ戦略について近年精力的に研究しているが、この事象も、「東欧演歌」や植民地の美術と問題軸を共有している。こうした認識に基づき、「領域横断的なグローバル・アート学の構築」と題する本研究は、従来型アカデミズムの「飛び地」に存在する、潜在的な共有課題を掘り起こし、一つの研究領域として挑戦的に提示しようとするものである。

2. 研究の目的

急速にグローバル化する今日の世界で、西洋由来の「アート/芸術」は、概念の上でも、また現実の存在様態においても大きな変化の過程にある。しかしながら、従来のアカデミズムの枠組みは、その変化の現実と、そこに至る歴史的経緯とを包括的に議論する場を未だ明確に示していない。本研究はこれに対し、グローバリズムと文化の相互作用を具体的に解明するとともに、そこに産出される個別の作品や事象を精密に考証する、領域横断的な「グローバル・アート学」を提唱し、固有の分析概念と方法論を探究する。

3. 研究の方法

この目的に取り組む体制として、専門領域・フィールドを異にする美術史家 2 名と、音楽学研究者 1 名、計 3 名のチームを編成する。3 名のメンバーはそれぞれ、初期近代スペインの新大陸植民地におけるヨーロッパ美術の移植、戦後の国際美術シーンにおけるアメリカの覇権確立とその体制への日本の参入、欧米国際資本が操作する音楽システムと中東欧のポピュラー音楽との間の相互的な交渉、について個別の研究に取り組んできた。これらの研究は、対象のジャンルや地域、時代を異にするが、いずれもヨーロッパ中心主義的な芸術観を「周縁」から相対化する点において、相互に通じる課題を共有する。

本研究は、このように共通の問題意識をもちつつ、それぞれが取り組む個別の研究テーマを深く掘り下げる。それとともに、従来のアカデミズムの枠組みでは相互に接続されることのなかった知見を連動させ、新たな学術的枠組みを構築する。メンバーは、グローバル・アートの歴史的成り立ち、現代の美術領域、現代の音楽領域という大まかな役割分担のもと、緊密に協力して「グローバル・アート学」の基盤となる、固有の分析概念と方法論を探究する。その作業は、次の 3 つの問題軸に沿って系統的に進める。

1) 芸術作品における「グローバルなもの」と「ローカルなもの」の相互作用: 植民地主義時代のグローバルな覇権のもと、ヨーロッパ文化は世界規模で流通し、非ヨーロッパ地域においても支配文化としての権威を確立した。ヨーロッパ人自身が「アート/芸術」と規定した一連の表現物は、その支配文化の核心に位置する。今日の「グローバル・アート」成立に至る歴史は、こうした植民地主義のメカニズムを通して国際的な流通性と権威とを獲得したもの(=「グローバルなもの」と、そうした流通システムの周縁に置かれてきたもの(=「ローカルなもの」と)との相互的な作用の過程と捉えることができる。本研究は、美術史学と音楽学にまたがって異なる専門分野をもつ 3 名の研究者が、芸術ジャンル、対象の地域、時代を超えた多様な事例をもとに、「グローバルなもの」と「ローカルなもの」との相互作用を核とした領域横断的なグローバル・アートの枠組みを構築する。

2) 起源を異にする文化的要素の節合のメカニズム: 「グローバルなもの」と「ローカルなもの」の対照は、植民地主義に由来する非対称な力関係を前提としている。しかし、その力関係は決して単純に一方的なものではなく、かつ現代においてはいっそう複雑化している。例えば支配的な文化の側が従属する人びとの文化を資源化し、「エキゾチック」な造形的技法や音楽的素材を「芸術」のカテゴリーに吸収するとしても、従属する側の人びとは逆に、その過程を通して、グローバルに流通する支配者の文化に参入する機会を獲得する。異なる起源をもつ文化のこうした「節合」の動態は、具体的な作品分析を踏まえてこそ実質的な研究が可能になる。本計画は、その作品研究の領域において豊富な経験をもつ研究者が参集し、グローバルな文化節合のメカニズムを解明する、新たな概念と方法論を探究する。

3) グローバル・アートにおける「価値」の問題: 「アート/芸術」の議論は、その「価値」をめぐる問いを避けることはできない。「アート/芸術」がヨーロッパ中心主義の枠に閉じていた時代、

暗黙に当然視されたその価値の所在は、非ヨーロッパ地域を含むグローバルな文脈に開かれたことで大いに流動化している。その「芸術的価値」の所在をどのような形で規定しようかという本質的な問いにも、今日的な課題として取り組む。

4. 研究成果

本研究の研究成果は、上に述べた3つの観点に基づき、共同の研究と個別の課題の探究に取り組んだ。

共同研究の成果としてはまず、代表者および分担者の間において協力し、2020年1月に国立国際美術館(大阪)において開催した学際的シンポジウム「《Cosmo-Eggs 宇宙の卵》(ヴェネツィア・ビエンナーレ2019日本館):アートと人類学の交点から考える」がある。このシンポジウムは、2019年のヴェネツィア・ビエンナーレ日本館に代表作品として展示された《Cosmo-Eggs 宇宙の卵》をテーマとし、その制作チームメンバーである下道基行氏(アーティスト)、石倉敏明氏(文化人類学・秋田公立大学)らをゲストに招き、同作品の構想の核心にあったアートと人類学の協働のプロセスを詳しく検討した。その議論を通して、作品のモチーフとなった宮古島地方の「津波石」というローカルなモチーフが、それをめぐるコミュニティの記憶や神話的なヴィジョンの発掘を通して作品化された過程を、具体的にあとづけた。そのうえで、この「ローカル」な文化に関わる作品が、グローバルなアートワールドの祭典であるヴェネツィア・ビエンナーレに「日本代表」として展示されたこと、その結果として作品が、時に「日本的」な自然観などと結びつけて解釈されうる可能性を、作者であるアーティストや文化人類学者がどのように認識していたのかを問うた。そこで明らかになったのは、本質主義的な「日本らしさ」の存在も意識しつつ、その「神話化」のメカニズムそのものをあえて作品化しようとする野心的な戦略であった。また、『Cosmo-Eggs 宇宙の卵』は、インスタレーション作品として建築的要素や音楽的要素を組み込んだメディア複合的な作品でもあるが、その領域横断的な作品のあり方、共同作業の具体的過程、AIなど先端技術の利用、さらにはそうした先端的アート作品における「作者性」の所在についても論じた。

このシンポジウムは、多くの専門家を含む100名以上の聴衆を集めるとともに、社会的な関心も喚起し、『毎日新聞』(2020.2.20)に詳細な紹介記事が掲載された。また、シンポジウムの成果は、2021年3月発行の『民族藝術学会誌 arts/』(vol.36)に、特集記事(岡田裕成編)として公刊されている。

共同研究の成果としてはさらに、2021年度、研究代表者・岡田裕成と分担者・伊東信宏が共同し、民族藝術学会第36回大会において、「創造と摩擦 グローバルアート再考」と題するテーマ企画を実施した。この大会では、「東欧演歌」をテーマとするシンポジウムを開催するとともに、本プロジェクトの問題領域に関わる若手研究者の成果発表を広く集めた。その成果は、2022年発行の『民族藝術学会誌 arts/』(vol.37)に特集として公刊されている。また、特集記事には、若手研究者の協力を得て、「グローバルアートを再考するための文献案内」と題する浩瀚な書誌一覧を作成し、掲載した。これは対象領域の多様性から先行研究の共有が容易でないグローバルアート研究の基盤構築に資するものである。

2021年度にはまた、研究代表者・岡田と分担者・池上裕子が共同し、「アート、記憶、政治 あいちトリエンナーレから一年に考える」と題するオンライン・シンポジウムを開催した。「あいちトリエンナーレ」は、日本による朝鮮植民地支配に関する歴史認識や天皇制に関わる作品の展示が大きな社会的反響を呼び起こした。シンポジウムでは、このトリエンナーレの出品作家で、歴史の記憶に関わるユニークな作品を発表している小田原のどか氏らを招聘し、グローバル化する世界において、国家間・個人間において容易に共有されない歴史の記憶に関わる作品が、社会との間に引きこおす軋轢の諸相を検討するとともに、今日のアートに関わるわれわれが、そのような軋轢とどのように向き合うべきかを論じた。

これらの今日の事象に関わる研究集会とともに、異なる専門性に立脚する研究代表者及び分担者は、「グローバル・アート学」の基盤となる、固有の分析概念と方法論について、相互の協力のもとそれぞれの研究を進めた。

グローバル・アートの成り立ちを初期近代以来の美術史を通して検討した代表者は、その成果として、複数の論文(「適応/消費/収奪 征服後メキシコにおける宣教と先住民共同体の美術」[2020年]、「香雪美術館蔵《レパント戦闘図屏風》:主題同定と制作環境の再検討」[2020年、第32回国華賞受賞]、「フェリペ2世のコレクション:スペイン世界帝国を表象するイメージと「もの」」[2020年]、「ハプスブルク・スペインの東アジア外交と美術の地政学」[2021年])において、美術をめぐるグローバルな地政学のもとに発生するさまざまな力関係が、美術作品の主題モチーフや様式、素材・技法の選択に作用し、かつ、外交上の贈物交換やコレクション形成の場において政治的な機能を果たすことを明らかにした。

こうした歴史的事象の探究は、上に挙げた極めて今日的な事象とも多くの共通点をもつ。今日の現象を問うことは歴史研究の着想を大いに拡張し、逆に、歴史的な事象の深い理解は、今日の最も先端的なアートをめぐる地政学を解明する大きな助けとなった。このような本研究の広がりの中で、分担者の2名はより現代的な作品・事象の研究において、「グローバル・アートの地政学」というべき方法論的観点から研究を進めた。

分担者・伊東信宏は、「東欧演歌」をめぐる地政学的枠組みを、「東欧/西欧」、「オリエント/オクシデント」、「国家管理経済/自由市場」などの対抗軸の力学のもとに解明した。またもう一人

の分担者・池上裕子は、戦後の沖縄や日系アメリカ人社会の美術を、「境界のモダニズム」という独自の概念で分析し、真喜志勉やロジャー・シモムラといったアーティストの作品において、そのイメージソースの選択などについて、従来知られてこられなかった独自性と戦略性を明らかにした。これらの成果は別掲の国内外の論考において公にされている。

なお、助成期間の終了後とはなるが、研究代表者・岡田と分担者・池上は、2022年5月開催の美術史学会全国大会シンポジウム「移住者たちの美術」の報告者に招聘され、本科研課題の成果を含む報告をおこなう(岡田裕成:「初期近代の植民地主義と『移住者たちの美術』」、池上裕子:「第二次世界大戦後の美術におけるディアスポラの諸相」)。これは科研費による活動の一環ではないが、その研究の価値が学会内において認識されつつあることを示すものとして特記する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 伊東信宏、岡田裕成編	4. 巻 37
2. 論文標題 特集：創造と摩擦 グローバルアート再考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 民族藝術学会誌 arts/	6. 最初と最後の頁 7-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 岡田裕成	4. 巻 42
2. 論文標題 フェリペ二世のコレクション スペイン世界帝国を表象するイメージと「もの」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術フォーラム21	6. 最初と最後の頁 15-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 岡田裕成	4. 巻 2
2. 論文標題 《レバント戦闘図屏風》：主題同定と制作環境の再検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 香雪美術館研究紀要	6. 最初と最後の頁 27-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 伊東信宏	4. 巻 36
2. 論文標題 「ポップフォーク」の展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『民族藝術学会機関誌 arts/ 』	6. 最初と最後の頁 34-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Hiroko Ikegami
2. 発表標題 Staging the Incarceration: Roger Shimomura 's Seven Kabuki Plays
3. 学会等名 Spencer Museum of Art, University of Kansas, USA. (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池上裕子
2. 発表標題 アート、記憶、政治：あいちトリエンナーレから一年に考える：コメント
3. 学会等名 シンポジウム「アート、記憶、政治：あいちトリエンナーレから一年に考える」（大阪大学）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田裕成
2. 発表標題 アート、記憶、政治：あいちトリエンナーレから一年に考える：趣旨説明
3. 学会等名 オンラインシンポジウム「アート、記憶、政治：あいちトリエンナーレから一年に考える」（大阪大学）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 池上裕子
2. 発表標題 民意の芸術？アメリカ美術断章
3. 学会等名 オンラインシンポジウム「民意の世紀：大衆社会の政治・芸術・文化」（立教大学）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田裕成
2. 発表標題 "Imágenes negociadas": Los "panos" del virrey Toledo y las primeras representaciones del Inca
3. 学会等名 Congreso de Arte Virreinal: El Futuro del Arte del Pasado (Lima, Peru) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田裕成
2. 発表標題 「Cosmo-Eggs 宇宙の卵」(ヴェネツィア・ピエンナーレ2019日本館): アートと人類学の交点から考える
3. 学会等名 『民族藝術学会誌 arts/』リニューアル創刊記念・公開シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊東信宏
2. 発表標題 1920年代のハンガリー: 解放と閉塞の交錯
3. 学会等名 シンポジウム「第一次大戦と音楽」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池上裕子
2. 発表標題 ロジャー・シモムラの《ミニドカ》シリーズ 浮世絵イメージの使用と日系人強制収容の記憶
3. 学会等名 第72回美術史学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池上裕子
2. 発表標題 Genealogy of Okinawan Pop: Tom Max, Teruya Yuken, and Aya Rodriguez-Izumi
3. 学会等名 Okinawan Art in its Regional Context: Historical Overview and Contemporary Practice (The University of East Anglia) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池上裕子
2. 発表標題 Roger Shimomura 's Diaspora Pop: Minidoka Series and the Incarceration of Japanese Americans during WWII
3. 学会等名 American Art of the Sixties (Texas A&M University, オンライン開催) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 美学会、岡田裕成他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 768
3. 書名 美学の事典	

1. 著者名 ラテンアメリカ文化事典編集委員会、岡田裕成他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 780
3. 書名 ラテンアメリカ文化事典	

1. 著者名 Dan Jacobs, Hiroko Ikegami, Sarah Magnatta	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Museum of Outdoor Arts, Colorado	5. 総ページ数 68
3. 書名 Rauschenberg: Reflections and Ruminations	

1. 著者名 齋藤 晃、ギジェルモ・ウィルデ、折井 善果、新居 洋子、中砂 明德、真下 裕之、岡田 裕成、小谷 訓子、岡 美穂子、網野 徹哉、鈴木 広光、王寺 賢太、金子 亜美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 554
3. 書名 宣教と適応	

〔産業財産権〕

〔その他〕

art historian's studio (Hiroshige Okada Website) http://www.let.osaka-u.ac.jp/~okada/ahs/

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊東 信宏 (Ito Nobuhiro) (20221773)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	池上 裕子 (Ikegami Hiroko) (20507058)	神戸大学・国際文化科学研究科・教授 (14501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関